

3月4日

継続・新規グループ 発表作品の手直しと発表会

今年度最後の発明クラブの日です。継続グループは、発表会で、うまく動かなかったところ、もう少し工夫すればもっとよくなるかもしれないところなどを直して作品を完成させました。賞にははいらなかったけれどアイデアのよい作品を自分たちで選びました。それらの作品は「資源を暮らしに生かす作品展」などに応募します。

継続グループのみんなで選んだ作品です。

阿部 純也	「ささっとおそうじゴミ箱」
金仙 達希	「あっしゅくごみばこ」
長谷川聡一	「硬貨選別貯金箱」
高山 嘉稀	「非常用タペストリー」
藤城 陸	「手の届かないところにある物を取る棒」



新規グループは保護者の方々の見守りの中で発表会をおこないました。



「海底二万マイル」というお話で宝箱の中には金銀財宝ではなく一枚の紙きれが入っていました。それには「必要は発明の母」と書かれていました。金銀よりこの言葉の方が宝物だということです。



新規グループの入賞者のみなさんです。



手嶋 凛音	「鈴がたくさんなる観覧車」
木全 司	「風に向かっていく船」
佐野未空斗	「ジェットゴーランド」
谷口 楽	「和風踊る人形」



おめでとう！！

この一年間を振り返って

クラブ員の前で発表がすごく緊張することを初めて知りました。

言葉を間違えたり、プーリーのゴムが外れてしまったけれど、終わった時はとても気持ちがよくて、今まで頑張ってきてよかったと思いました。

来年度は継続に入って、先輩たちのように新しい発明品を作り、また気持ちよく発表したいと思います。

早川 貫太

硬貨選別貯金箱を作ったことで、コインの大きさを全て知ることができました。作品作りではコインが思うように落ちなくて苦労しましたが、最後の発表会でクラブ員のみんなに認めてもらえてうれしかったです。来年度は自分の思いどおりの作品を作りたいです。

長谷川 聡一

便利さを最優先に考えて「あんどんになる！ 懐中電灯」を作りました。次は「自動走行ロボット」を作りたいです。

藤田 笑杏

ピンポン玉運び競争でうまく機械が動かなくて困っていたが、三個とりができたので嬉しかったです。

鈴木 創太

みんな生活に便利な作品を考えて作っていたのですごくいいと思いました。僕も将来いろいろ便利な物を作れるようになりたいです。

田村 珀英

失敗は失敗ではありません。「もう～やめた」はだめですよ。なんどでも挑戦してみることが大事です。来年度また頑張ろう！



豊橋少年少女発明クラブ平成二十八年年度
発明クラブだよ

NO. 12

201

3. 4

発明クラブホームページ : <https://www.t-hatu.jp>

発明クラブ事務局 : info@t-hatu.jp